



ユニチカ株式会社

2026年3月期 第1四半期 決算の概要

2025年8月6日

- 1 2026年3月期 第1四半期決算概要**
- 2 各事業セグメントの状況**
- 3 2026年3月期 通期業績予想**

2026年 3月期 1Q実績

- 》食品包装用途はインバウンド需要の継続的な拡大を背景に販売は堅調に推移。自動車や生活資材、建築土木など幅広い用途分野で販売は回復。各製品で価格改定を実施し、売上高は309億円（前期比+3億円）となった。
- 》経費削減などのコストダウン施策の実施、不採算販売の見直し、製品価格改定の効果により、営業利益は28億円（前期比+17億円）となった。
- 》2026年3月期第1四半期連結累計期間（2025年4月1日～2025年6月30日）において、昨年度末からの為替相場の変動により6億円の為替差損を計上したが、18億円（前期比▲8億円）の経常利益を確保した。

2026年 3月期 2Qおよび 通期業績予想

- 》2026年3月期の業績予想については、現時点においては、構造改革対象事業における事業譲渡等が確定していないことなどから、合理的な業績予想の算定ができないため、連結業績見通しは未定。

売上高

309億円（前年同四半期 307億円 / 前年同四半期比 +3億円）

食品包装用途、自動車用途、生活資材用途を中心に販売数量増加。各製品の価格改定の効果により、前年同四半期比0.8%の増収。

営業利益

28億円（前年同四半期 12億円 / 前年同四半期比 +17億円）

不採算販売の見直しや価格改定の実施、コストダウン施策の実行により、前年同四半期比143.4%の増益。

経常利益

18億円（前年同四半期 27億円 / 前年同四半期比 ▲8億円）

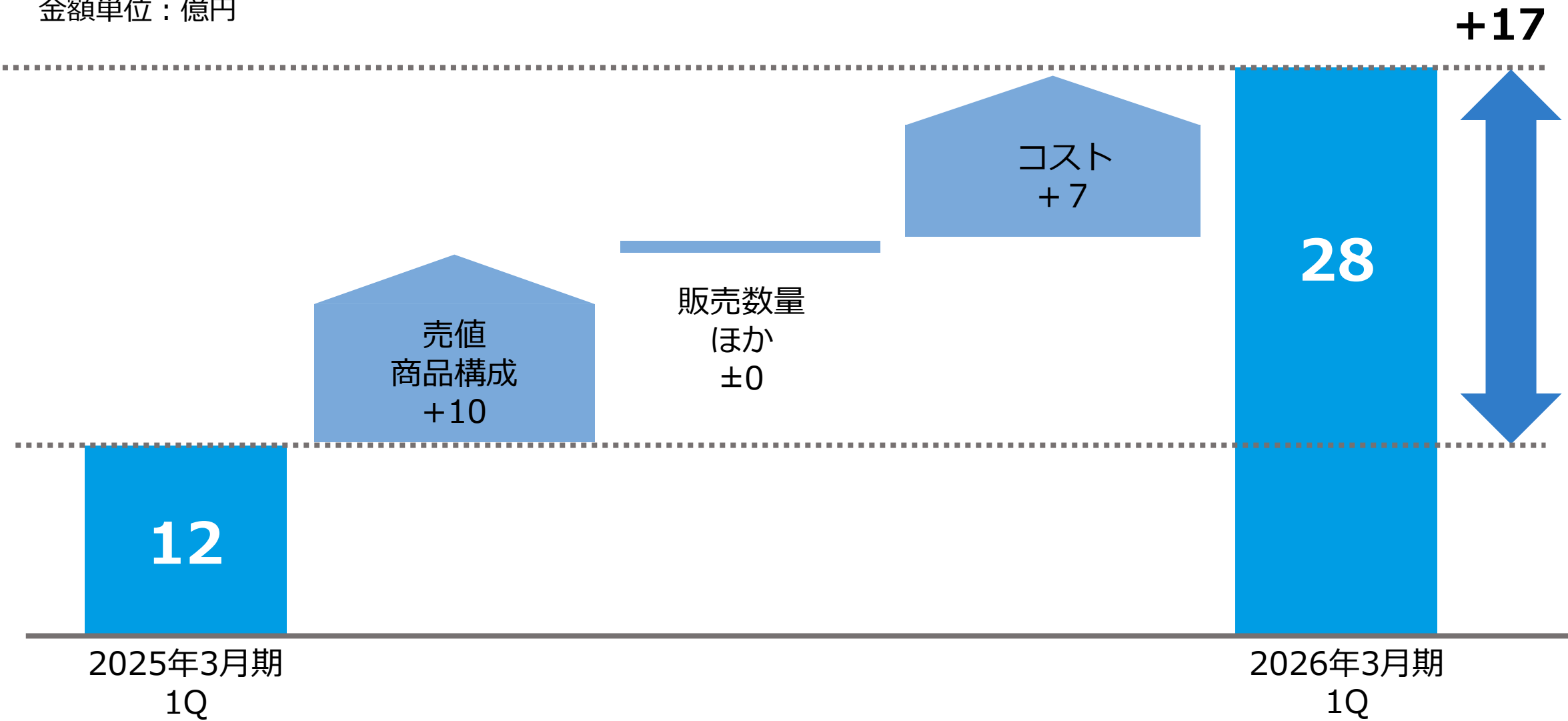
円高の進行により、外貨建て資産の評価損6億円を計上。
2025年3月末為替レート：1ドル＝150円に対し、6月末：1ドル＝145円

親会社株主に
帰属する
四半期純利益**13億円**（前年同四半期 20億円 / 前年同四半期比 ▲7億円）

連結合計 (単位：億円)	2024年3月期 1Q実績	2025年3月期 1Q実績	2026年3月期 1Q実績	前々期比	前期比
売上高	279	307	309	+30	+3
売上総利益	47	61	77	+30	+16
営業利益	▲7	12	28	+35	+17
営業利益率	(▲2.4%)	(3.8%)	(9.2%)	—	+5.4%
経常利益	8	27	18	+11	▲8
特別利益	—	2	—	—	▲2
特別損失	2	1	1	▲1	▲1
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2	20	13	+11	▲7
減価償却費*	13	12	7	▲6	▲5
設備投資*	12	13	8	▲4	▲5

* 減価償却費、設備投資額は無形固定資産分を含まない

金額単位：億円



セグメント別 (金額単位：億円)	2025年3月期 1Q	2026年3月期 1Q	前期比増減	
			金額	率
売上高	307	309	+3	+0.8%
高分子事業	141	139	▲2	▲1.3%
機能資材事業	93	96	+3	+3.4%
繊維事業	72	73	+1	+1.5%
その他	0	0	+0	+67.3%
営業利益	12	28	+17	+143.4%
高分子事業	15	23	+9	+60.9%
機能資材事業	▲0	5	+5	-
繊維事業	▲2	1	+3	-
その他	▲0	▲0	+0	-

金額単位：億円		2025年 3月期1Q	2026年 3月期1Q	増減
売上高		141	139	▲2
	フィルム	90	84	▲6
	樹脂	34	36	+2
	他	17	20	+3
営業利益		15	23	+9

フィルム事業

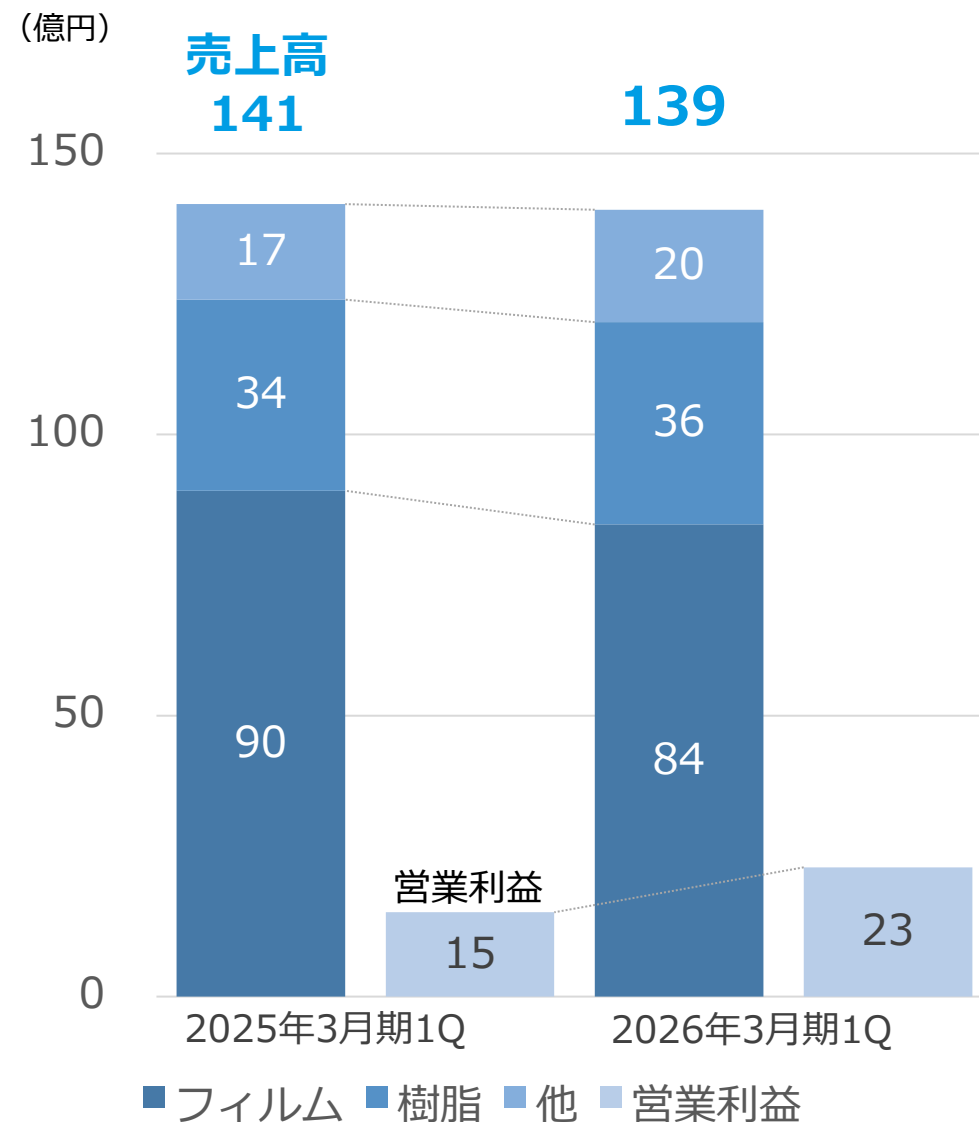
包装用フィルムは、市況の回復により販売は好調に推移。工業用フィルムは半導体市況の回復に伴い、一部製品で販売が好調を維持。海外においては、海外安価品との価格競争の影響を受けたが、不採算販売の停止およびコスト削減により、減収にはなったものの収益は大幅に改善。

樹脂事業

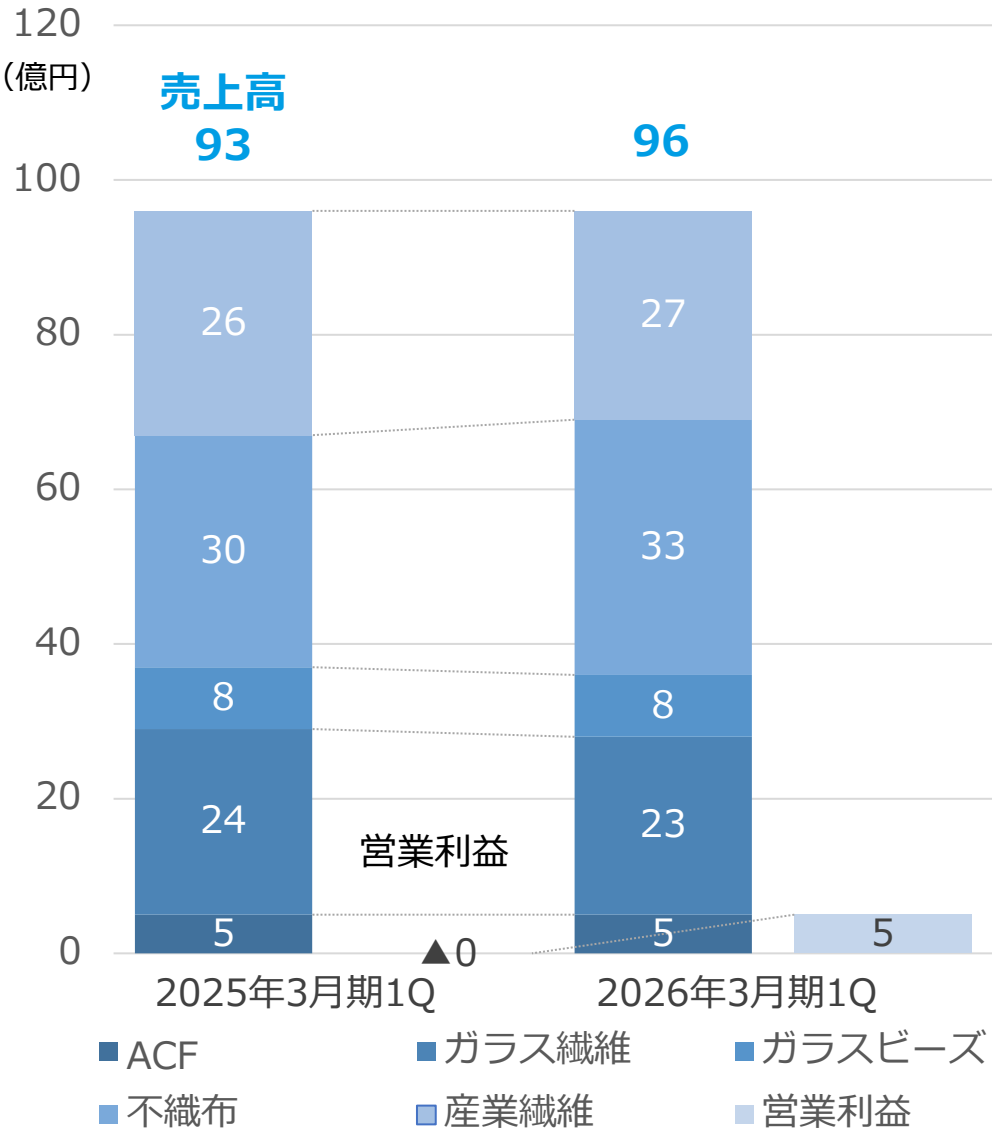
ナイロン樹脂やUポリマーなどのエンブラは自動車用途で販売が伸長。機能樹脂は電気電子用途の需要低迷により販売はやや苦戦。

セグメント営業利益

コストダウン施策や不採算販売の見直しと販売価格の適正化の効果により収益が大幅に改善した。



金額単位：億円		2025年 3月期1Q	2026年 3月期1Q	増減
売上高		93	96	+3
	活性炭繊維 (ACF)	5	5	+1
	ガラス繊維	24	23	▲0
	ガラスビーズ	8	8	▲0
	不織布	30	33	+2
	産業繊維	26	27	+1
営業利益		▲0	5	+5



活性炭繊維（ACF）事業

空気浄化用途のVOC除去用シートの販売が低調であったが、主力の浄水用途の販売は堅調に推移したことで売上高はやや増加。

ガラス繊維事業

産業資材分野はテント・シートなど建築資材用途を中心に堅調に推移。環境エネルギー分野、電気電子分野も堅調に推移。電子材料分野は、半導体市況が回復基調にあり、高付加価値特殊ガラスクロス、超薄クロスの受注が回復。

ガラスビーズ事業

道路用途は工事件数減少の影響で販売は減少。工業用途は自動車分野で販売が低調。反射材用途では海外での販売が大幅に伸長した。

不織布事業

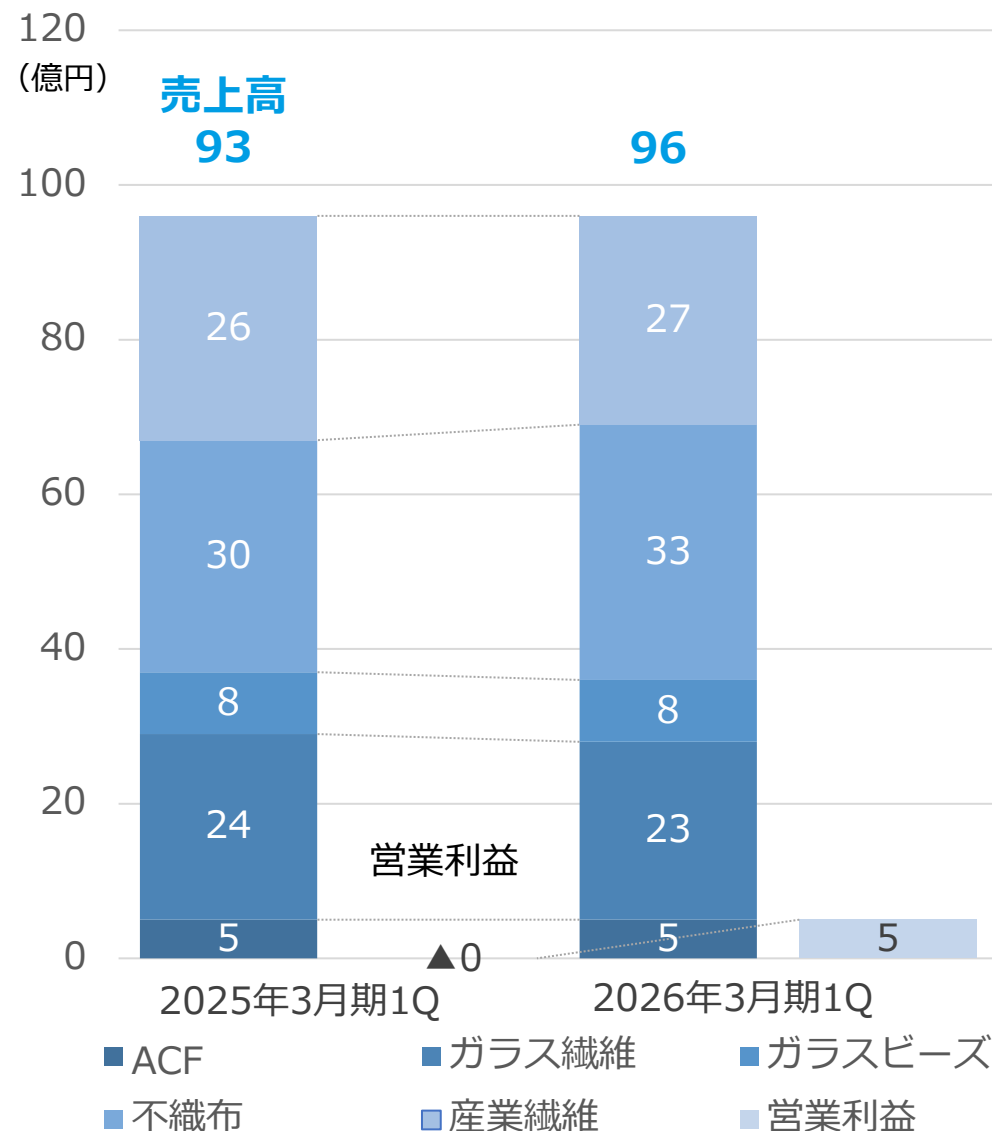
спанボンド不織布はインフラ資材を中心に堅調に推移。コットンспанレースは、スキンケアなど生活資材用途で販売が回復。

産業繊維事業

ポリエステル短繊維およびポリエステル高強力糸の販売は一部用途で減少。モノフィラメントの収益は順調に推移。

セグメント営業利益

各事業の価格改定効果と不採算販売の見直しにより収益が改善。コストダウンの効果も合わせて、セグメント全体で営業赤字から黒字に転換。



金額単位：億円		2025年 3月期1Q	2026年 3月期1Q	増減
売上高		72	73	+1
	衣料繊維・他	72	73	+1
営業利益		▲2	1	+3

衣料繊維事業

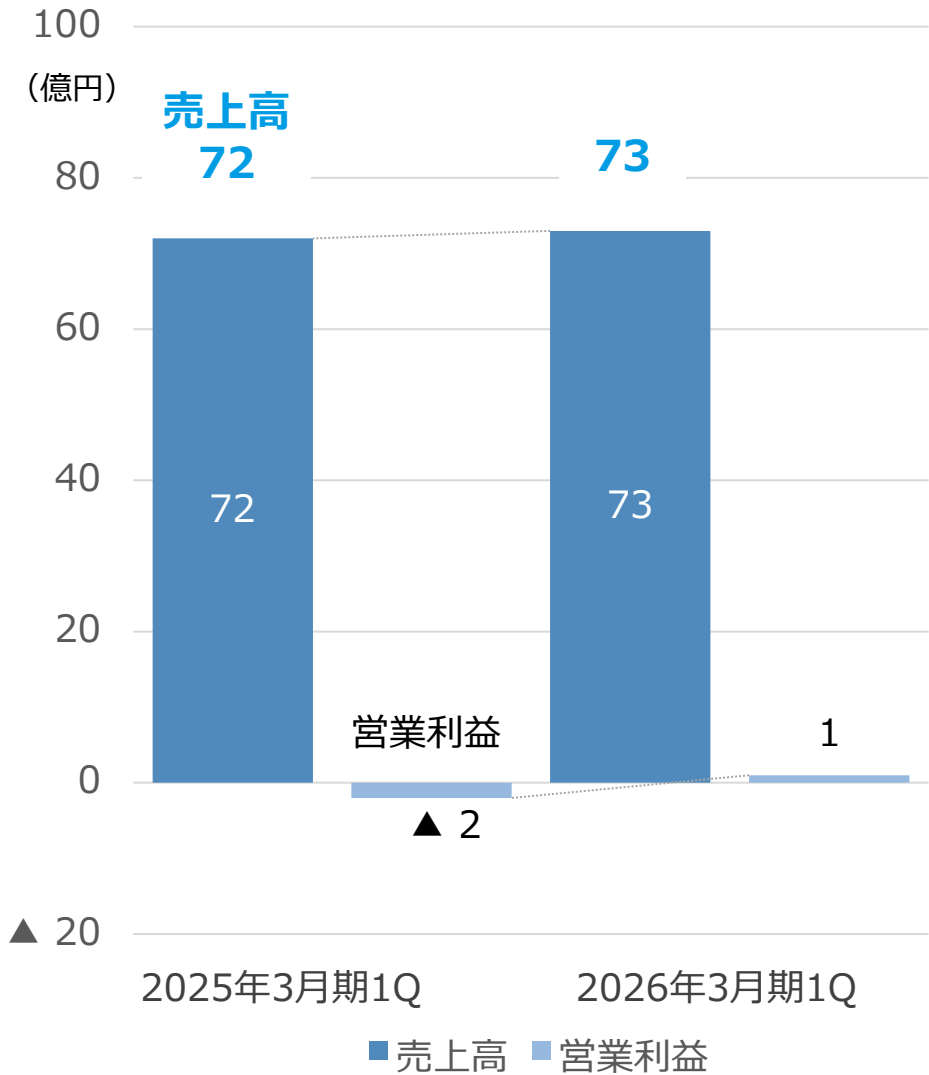
ユニフォームの販売は官需を中心に堅調に推移。一般衣料、寝装、スポーツ衣料分野は期間を通じて需要が低迷。

産業資材事業・グローバル事業

産業資材事業は電気・電子用途向けの販売が好調に推移。

セグメント営業利益

主力のユニフォーム販売を始めとした各製品の増販、不採算販売の見直しをはじめ、価格改定とコストダウン施策により、営業赤字から黒字に転換。



現時点においては、構造改革対象事業における事業譲渡等が確定していないことなどから、合理的な業績予想の算定ができないため、連結業績見通しは未定。

ご注意

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、
本資料作成時点において
入手可能な情報に基づいて作成したものであり、
実際の業績等は、今後の種々の要因によって、
本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

(金額単位：億円)		2023年 1Q	2023年 2Q	2023年 3Q	2023年 4Q	2024年 1Q	2024年 2Q	2024年 3Q	2024年 4Q	2025年 1Q
売上高		279	301	285	318	307	309	320	329	309
	高分子	127	133	125	126	141	140	141	132	139
	機能資材	79	86	85	92	93	91	92	95	96
	繊維	73	82	75	101	72	78	87	102	73
	その他、連結調整	0	0	0	0	0	0	0	0	0
営業利益		▲7	▲11	▲8	1	12	11	21	16	28
	高分子	2	▲1	1	4	15	13	18	15	23
	機能資材	▲7	▲8	▲6	▲4	▲0	2	3	▲1	5
	繊維	▲2	▲3	▲3	2	▲2	▲3	0	2	1
	その他、連結調整	0	▲0	▲0	▲0	▲0	▲0	▲0	▲0	▲0

(金額単位：億円)		2023年 1Q	2023年 2Q	2023年 3Q	2023年 4Q	2024年 1Q	2024年 2Q	2024年 3Q	2024年 4Q	2025年 1Q
高分子		127	133	125	125	141	140	141	132	139
	フィルム	85	84	82	85	90	88	82	84	84
	樹脂	32	32	35	35	34	34	35	35	36
	その他	11	17	8	5	17	18	24	13	20
機能資材		79	86	85	92	93	91	92	95	96
	ACF	5	5	5	5	5	5	5	6	5
	ガラス繊維	20	23	23	24	24	24	23	22	23
	ガラスビーズ	6	6	7	8	8	6	7	7	8
	不織布	26	28	28	31	30	32	35	34	33
	産業繊維	23	23	22	24	26	23	23	25	27
繊維		73	82	75	101	72	78	87	102	73